

教職員の皆様へ

教育センターだより【7号】

令和6年9月18日 発行



518-0485

三重県名張市百合が丘西5番町25番地

教育支援センター(さくら教室) 2F

Tel 0595-63-7830

Fax 0595-64-8802

事務室・教育よろず相談 1F

E-mail:sakura@nabari-mie.ed.jp

Tel 0595-64-8801 Fax 0595-64-8802

E-mail:kyouiku-ce@city.nabari.lg.jp

学校ボランティア室 1F

minakuru01@nabari-mie.ed.jp

Tel 0595-64-8864

Fax 0595-64-8802

ホームページ <http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/>

教育センターホームページ二次元コード



令和6年度 名張市教育センター 夏季研修講座報告第2弾

前号に引き続き、夏季研修講座の概要を報告します。お読みいただいて授業改善へ役立てていただけたらと思います。ロイノート資料箱に保存されている講座資料もありますので、ご活用ください。

授業改善への1歩に～研修講座から学ぶ～②

【図工・美術】 絵画表現の基礎・基本

中西結麻 赤目中学校教諭

子どもたちに絵画指導をする際、はみ出さないための平筆の使い方や、面相筆の塗り方など、筆の選び方や使い方を分かりやすく教えていただきました。

デカルコマニーやストリングなどのモダンテクニックを用いることで、絵を描くことが苦手な子どもたちも「できた！」を感じられる授業実践を具体的に教えていただきました。



【書写】 子どもたちがのびのびと取り組める書写

福村俊夫 美旗小学校講師、岩森進 名張小学校非常勤講師

硬筆の指導では、子どもたちが書きやすい鉛筆や下敷きなどの工夫についても教えていただきました。毛筆の指導では、福村先生と各学年の課題の文字と一緒に書き、右上がりの線の書き分けの指導について学びました。

後半は、夏に関する言葉に漢字を当てはめて書く課題（はなび⇒波菜日）について学びました。子どもたちが自由な発想でのびのびと取り組めるように課題の工夫について学びました。

どちらの先生からも、子どもたちに書かせる前に、指導者が実際に書いて、指導のポイントを捉えることが重要と教えていただきました。



【体育実技講習】 児童生徒の体力・運動能力之向上を目指した動きづくり

山本敏之 鈴鹿市立庄野小学校教頭

授業の導入で活用できる「クモ歩き」「アザラシ歩き」など子どもたちに継続させたい動きについて学びました。短い時間でも継続して運動することで体力向上につながると教えていただきました。

ラダーを使ったトレーニングでは、アップテンポな音楽に合わせた動きを教えていただきました。動きを間違えた時にも笑い合って、運動を楽しめる雰囲気づくりの大切さも学びました。



【社会・総合的な学習の時間】 教室から広がる SDGs－世界とつながる授業のつくり方－
堤真人 JICA 三重県デスク三重県国際協力推進委員

SDGsの視点に立った授業づくりについて学びました。SDGsの視点から授業を作るのではなく、普段の授業や身の回りにあることをSDGsの視点から見直すことが大切と教えていただきました。そのことが「世界とつながる」と教えていただきました。



【理科】 理科の授業づくりの基礎・基本
加藤創太 桔梗が丘中学校教頭

双眼実体顕微鏡の安全な使い方や、子どもたちがスムーズに実験・観察ができるように指示の仕方を教えていただきました。「探究の心を育てる」授業づくりが大切であるとお話いただき、子どもたちが「もっと調べたい!」「なんで?」と思うことや、実験の失敗を「なぜうまくいかなかったのか?」と考える場面を作ることが大切と学びました。



【学級づくり】 エビデンスに基づいた学校教育の改善
白鷹直樹 学校教育室指導主事

Q-U アンケートの結果をどのように分析し、どのように活用するかについて教えていただきました。結果と普段の観察のずれはないかを考え、指導援助を工夫し、問題行動の未然防止につなげることが大切と教えていただきました。特定の教員の理解にとどまらず、チームで情報交換を行い、児童生徒の支援方針について共通理解を図ることが重要と学びました。



【不登校】 新たな不登校を生まない教師の関わり
瀬戸美奈子 三重大学教育学部教授

不登校を未然に防ぐために、ストレスに対する対処法を子どもたちに伝える必要性を学びました。ストレスマネジメントとして①認知への働きかけ②ストレス天気予報③ネガティブな感情とのつきあい方などについて具体例を挙げて教えていただきました。

子どもたちの心理的安全性を保障するために、学級経営を工夫したり、学習課題を工夫したり、学校全体でマネジメントすることの大切さを学びました。



【ふるさと学習「なばり学」】 名張市内フィールドワーク
谷戸 実 教育センター地域学校協働本部チーフコーディネーター
門田了三 名張市郷土資料館職員

フィールドワークとして、オキツモ、夏見廃寺、美旗市民センター、新田用水、美旗古墳群、観阿弥公園、藤堂邸、名張市郷土資料館を見学しました。各見学地でふるさと学習「なばり学」の学習資料集に載っている内容以上のことを詳しく教えていただきました。学習資料集に載っている場所を実際に見学したことで、子どもたちへの指導がより広がると思います。



【情報教育】

ロイロノート活用講座「授業デザインを学ぼう」

後藤すみれ Loilo 株式会社、佐々木友哉 ロイロ認定ティーチャー

シンキングツールを使った実践例を具体的に教えていただきました。その中で、シンキングツールは「授業のめあてを達成するための手立てである」と教えていただきました。目的なのか手段なのかを明確にする重要性を学びました。

また、ロイロノートの新機能について教えていただきました。スタンプ機能など2学期からすぐに使える新機能があります。ご活用ください。



【学校図書館教育】 学校図書館を学びの拠点に

西澤祐子 東大阪大学特任教授

学校図書館には読書センター、学習センター、情報センターとしての機能があり、どのように活用すればよいか教えていただきました。

図書館教育担当者の役割についてもお話いただきました。担当者は子どもと学校図書館をつなぐ大事な役割があり、そのために、子どもたちの実態を教職員で共有し、自校の課題について考えていかなければならないと教えていただきました。自校で「今、何が大事か」を考えて、無理をせず、継続して取り組めることを考えることが大切であると学びました。



【若手教員スキルアップ研修「生徒指導」】

子ども・保護者との信頼関係を作る明日使える魔法のフレーズ

齋藤美穂 スクールソーシャルワーカー

「雑談力」を身に付けるために、アサーショントレーニングについて教えていただきました。アイメッセージで相手に考えを伝えたり、相手の話をしっかり聞いたりすることがコミュニケーションでは重要と学びました。

架空事例を基に、ロールプレイも行いました。限られた情報をもとに雑談を通して、子どもが持っている困り感の背景を考えました。どのようにアセスメントし、子どもの困り感を引き出していくか雑談のポイントについて学びました。



【若手教員スキルアップ研修「人権・同和教育」】

名張の人権・同和教育の取組から学ぶ

鴨志田知子・上森健史

地域環境部人権・男女共同参画推進室

併教育委員会学校教育室人権教育主事

比奈知文化センター職員

人権・同和教育を進めるにあたり、名張市でどのような取組を進めてきたか教えていただきました。比奈知文化センターの職員の方から、「困った子ではなく、困っている子」として考え、なぜ困っているのかを知るために家庭訪問の大切さを教えていただきました。

「人権学習を進める時に、分からなくなったら比奈知文化センターにおいて。」と比奈知文化センターの職員の方から、温かい言葉をいただきました。

